

学生時代の経験をもとに地元合唱団 とともに地域貢献活動を実施。

おぎはら ぎじゅう
荻原 儀重さん (一財)日本郵政退職者連盟(千葉県我孫子市) 80歳

音楽活動の再開と福祉活動の始まり。

古希を目前にして、学生時代に培った音楽活動の再開を考えていた荻原儀重さんは、地元の男声合唱団「アンサンブル・レオーネ」に興味を持ちました。

調べてみると「アンサンブル・レオーネ」では、昭和53年の結成以来、地域の活動だけでなく、特別養護老人ホームや社会福祉施設への慰問・訪問を、長期間にわたって継続的に展開していることを知ります。

音楽活動と共に、社会福祉活動にも強い関心を持っていた荻原さんは、迷うことなく入団を決心しました。

入団当



初は、メロディ部を担当する

第三ノールの二員として活躍

していた荻原さんですが、平

成16年、地元の我孫子郵便局

郵政記念日式典でのミニコン

サートでは指揮棒を振りまし

た。その後、ピアノが堪能であ

ることからその音楽的資質を

買われて、平成18年からは副

指揮者として、部外指揮者が

不在の際に団員の指導をする

ようになります。また、社会

福祉施設の慰問・訪問等の地

域での演奏活動では、指揮者

として登壇するようになりま

した。

荻原さんの庶民的で明るい

性格は、演奏会の進行で観客

に話をする際にも会場を和ま

せる雰囲気があり、訪問先の方

からも喜ばれ歓迎されています。

音楽活動だけでなく地域活動にも貢献。

荻原さんは現在、毎週の土

曜日または日曜日に行われる

練習の際、前半の1時間20分

を担当し、発声練習や、新曲の

音取り、曲想等についてきめ

細かい指導をしています。

平成25年12月に開催され

た「アンサンブル・レオーネ」

の創立35周年記念では、OB

等のゲスト出演者を含めた総

勢50名を超える大合唱団の指

揮者として登壇し、「ふるさと」

「遙かな友に」「希望の島」の

合唱三部作を披露。500人

を超える聴衆から喝采を受け

ました。

また、荻原さんは、地元で

古くから歌い継がれてきた

「手賀沼小唄」や「我孫子音

頭」の普及と保存のため、自

演のCDを自主制作し、地域

の方に贈呈するなど、地域振

興にも積極的に取り組んでいます。

音楽活動の更なる前進を目指して。

音楽活動の幅を広げるた

めに、現在もピアノのレッスン

を続けている荻原さん。より

上級を目指してシヨパンのワ

ルツ集全曲をマスターするな

ど、意欲は衰えません。

「傘寿を迎えた現在でも、

音楽活動に年齢は関係ないと

の信念を持って、更なる前進

を目指していきたいと思いま

す。また、地域での合唱活動だ

けでなく、特別養護老人ホー

ムや社会福祉施設等の訪問活

動で、より積極的に社会貢献

を推進していきたいと思ってい

ます」と抱負を語ります。

